

第1章

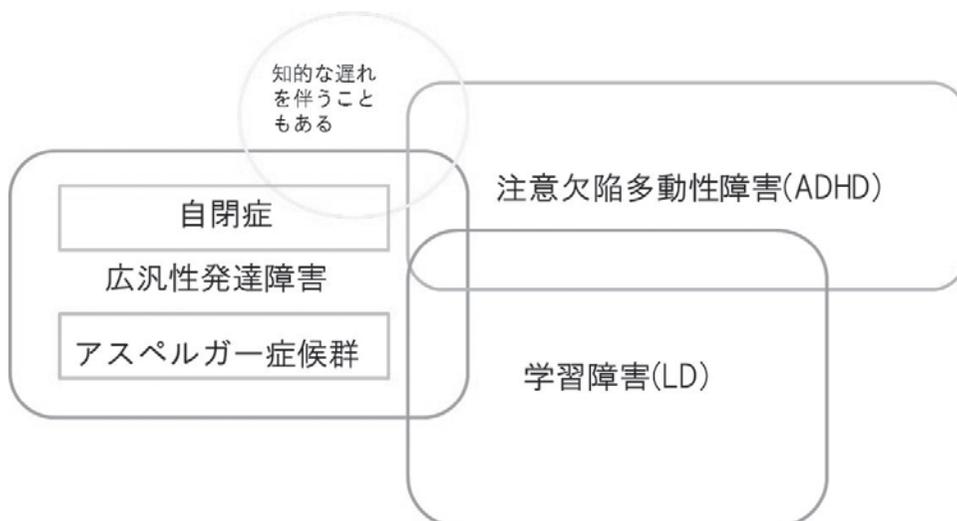
高機能発達障害者への 支援プログラムについて

本章では、第1節で高機能発達障害の定義や特性に触れた後、第2節で本研究の対象施設であるびわ湖ワークス・ジョブカレの事業について説明しています。第3節では、高機能発達障害者の支援現場の現状を踏まえ、本研究の背景と目的について触れています。

第1節 高機能発達障害とは

発達障害とは、発達障害者支援法第2条第1項に「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。本書における高機能発達障害とは、「知的障害を伴わない発達障害」のことを指しています。特に本節では広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）の特徴に焦点を当てることとします。

【図1：発達障害について】



※参考：厚生労働省パンフレット

広汎性発達障害は、社会性やコミュニケーション能力、行動の偏りなどの発達遅延を特徴とする発達障害の総称です。アスペルガー症候群や高機能自閉症も、広汎性発達障害に分類されます。文部科学省「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（2003）において、高機能自閉症とは、「3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの」と定義され、「中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される」としています。また、アスペルガー症候群については、「知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないもの」と定義されています。

広汎性発達障害の基本的な特性としては、大きくは以下の3つがみられます¹⁾。

①社会性に関する特性

視線を合わせることが難しい、人と気持ちを共有することが難しい、人の気持ちを察することが難しい、場の雰囲気を読むことが難しい など

②コミュニケーションに関する特性

言葉話を話して伝えることが難しい、言葉以外の表現媒体（視線・表情・姿勢・身振り手振りなど）を適切に用いることが難しい、字義通りの理解をする、話の要点を把握しにくい、曖昧な言葉や抽象的な表現が分かりにくい など

③想像力に関する特性

パターンや習慣を大切にすると、興味・関心の偏り、見えないこと・経験していないこと（例えば、未来、人の気持ち、人と人との関係性など）を想像しにくい、全体を見通すことが苦手 など
またその他の特性として、感覚の過敏さや鈍感さ、運動のぎこちなさ、多動、様々な精神症状（睡眠障害、不安障害、気分障害、強迫性症状など）、てんかんなども伴って現れやすいとされています。

第2節 高機能発達障害者への支援現場の実際（ジョブカレ事業を通して）

第1項 ジョブカレ事業

びわ湖ワークス・ジョブカレ（以下ジョブカレ）は、社会福祉法人グローが運営する自立訓練（生活訓練）事業と宿泊型自立訓練事業を行う障害福祉サービス事業所です。高機能発達障害のある人を対象として、地域の中で生活しながら企業で働くことを目標に、必要な支援を行っています。

高機能発達障害のある人の中には、社会参加や就労などに対してその障害特性に応じた適切な支援を必要としている人たちが多くいると思われませんが、これらの人たちに対応した障害福祉サービス事業所はまだ十分であるとは言えないのが現状です。特に20代以上の人たちの中には、二次障害を発症してから発達障害の診断を受け、なかなかそれを受容できないままの状態の人や、長期の在宅生活から生活リズムが整わず働く（生きる）意欲が低い状態の人、福祉サービスを利用し始めても馴染めずに結局在宅へ戻っていたり、福祉への不信感から他との繋がりが途絶え家族に依存する状態の人も少なくありません。

こうした現状や課題の中で、日中の場の確保や、働き・暮らす力を獲得する支援へのニーズの高まりから平成24年にジョブカレが開始されました。

ジョブカレの支援内容は、①いきる力獲得支援 ②くらす力獲得支援 ③はたらく力獲得支援の大きく3つに分類されます。自分なりの自立した暮らしを見つける上で必要なスキルに対して、昼夜一体での包括的な支援が行われています。昼間は働くために必要なスキル獲得や、対人関係で困らないようにコミュニケーションスキルの獲得、リラクゼーションの方法などを学びます。夜間は、地域にあるワンルームアパートにおいて、掃除、洗濯など一人暮らしに必要なことを身に付けます。利用する人それぞれの障害特性を把握し、それに合わせた支援プログラムを作成し、一定のスキルを身に付けられるよう支援することで、2年以内に一般企業に就職できることを目指しています。

また、このような昼夜一体での支援を行うと共に、より有効な支援プログラムやアセスメントの検討も開所以来継続して重ねてきましたⁱⁱ⁾。ジョブカレが日々の支援のなかで練り上げてきた支援プログラムや評価スキルシートについて、次項で紹介します。

第2項 ジョブカレの支援プログラムについて

本項ではジョブカレで行っている支援プログラムを紹介します。ジョブカレの事業は、就労に必要な知識・技能を身につけるということだけではなく、生活スキルやコミュニケーションスキルへの支援プログラムも設定されています。これらの支援プログラムは、朝活動、生活体験プログラム、就労準備プログラム、コミュニケーションプログラム、作業の5つに分類されており、全部で34種類あります。その時々利用者に合わせて支援プログラムを設定していく為、実施していない支援プログラムも存在しますが、目標を達成するために選択できるよう用意されています。支援プログラムの中身については、都度アレンジされるものもあれば、同じ流れで組まれているものもあります。

【図2：ジョブカレの支援プログラム】

(プログラム内容)

分類	プログラム名	概要・使用文献	
		目的・効果	
朝活動	朝のコグトレ	「1日5分！教室で使えるコグトレ」 1日1つずつ、認知トレーニングを行い、注意力、感情コントロール、危険察知、人との接し方、問題解決、身体をうまく使うことを身につけていく。	
	今日の新聞	自分の気になった新聞記事を要約して発表する。 自分の興味を知り、それを人に伝える。文章をまとめることで認知機能を高める。	
	パソコン練習	エクセル、ワード、パワーポイント等を練習する。 文字入力、エクセル、ワード、パワーポイントを各人のレベルに合わせて練習し、就労に活かす。	
	ワークサンプル	OA作業、事務、組立等。 実務訓練を行なう。	
	調理実習準備 (食事にありつ くために)	調理実習のための話し合い、下調べ、スケジュール組み立て等。 何を作るのか話し合う場で、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞く。また、意見が食い違ったときの他者との折り合いのつけ方、気持ちの整理の仕方等を学ぶ。他者と協力しながら作り方の下調べや、予算立て、スケジュールの組み立て、役割分担を行なう。	
生活体験プログラム	調理実習（作っ て食べよう）	話し合って決めたメニューを実際に調理する。 自炊の訓練。自分の役割をこなし、かつ周りを見ながら動く。手順に沿って作業する練習。他者と一緒に食事をするときのマナーを学ぶ。	
	コグトレ (身体を知ろう)	「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」 身体の使い方の苦手な部分を知る。身体の動かし方を訓練する。	
	あたまの体操	「コグトレ みる・きく・想像するため認知機能強化トレーニング」 「教室で使えるコグトレ」 認知機能（記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断）をのぼすトレーニング。	
	みんなで企画し よう！企画編	みんなで活動することを企画、計画する。 何の活動をどうやって行なうのかを話し合う場で、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞く。また、意見が食い違ったときの他者との折り合いのつけ方、気持ちの整理の仕方等を学ぶ。他者と協力しながら下調べや、予算立て、スケジュールの組み立て、役割分担を行なう。	
	みんなで企画し よう！実践編	みんなで企画、計画したことを実行する。 自分の役割を責任を持って果たす。集団行動を行なう。余暇活動の体験。	
	生活術を学ぼう 生活のあれこれ やってみよう	金銭管理、インターネットの使い方、社会資源の活用法、クーリングオフ等生活するうえで必要なことを学ぶ。簡単な裁縫、修繕等を身につける。 生活するために知っておいた方がよいスキルを学ぶ。	
	太極拳	講師より太極拳を学ぶ。 自分の体を知る、感じる。他者の動きを真似ることで認知機能を高める。	
	スポーツ (運動しよう)	スポーツ 体力づくり。身体を動かすことを楽しむ。チームプレーを行なう。	
	リラックス しよう	リラクゼーション。「発達障害者のためのリラクゼーション技能トレーニング」 ストレス・疲労のセルフモニタリングと対処方法を学ぶ。	
	就労準備訓練プログラム	調理実習準備 (食事にありつ くために)	調理実習のための話し合い、下調べ、スケジュール組み立て等。 何を作るのか話し合う場で、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞く。また、意見が食い違ったときの他者との折り合いのつけ方、気持ちの整理の仕方等を学ぶ。他者と協力しながら作り方の下調べや、予算立て、スケジュールの組み立て、役割分担を行なう。
		調理実習（作っ て食べよう）	話し合って決めたメニューを実際に調理する。 自炊の訓練。自分の役割をこなし、かつ周りを見ながら動く。手順に沿って作業する練習。他者と一緒に食事をするときのマナーを学ぶ。
		コグトレ (身体を知ろう)	「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」 身体の使い方の苦手な部分を知る。身体の動かし方を訓練する。
		ビジネスマナー	あいさつ、身だしなみ、言葉づかい、面接練習、履歴書作成等。 就職する際に必要なマナー等を学ぶ。
ハローワーク セミナー		面接会に合わせて、ハローワークで開催されるセミナーに参加する。 外部講師によるセミナーに参加することで、就職への意識を高める。履歴書作成、面接のスキルを向上させる。ハローワークの利用の仕方、求人票の見方等を知る。	
働くための スキル獲得！		メモの取り方、ほうれんそう、指示の受け方等を学ぶ。 働くために必要なスキルを学ぶ。	

就労準備訓練プログラム	対人技能トレーニング（職場でのつき合い）	「発達障害者のための職場対人技能トレーニング（JST）」 職場における基本的な対人マナー等について、ロールプレイや意見交換を行いながら学ぶ。
	先輩の話を聞こう	就職した卒業生の体験談を聞く。 実際に働いている先輩の体験談や思いを聞くことで、自分の就職へのイメージを具体的ににする。ピアカウンセリング効果。
	オレナビ！自分をナビゲーション	自分の取扱説明書を作成し、随時更新していく。 自分の得意・不得意、特徴、配慮してほしいこと等を文章にしてまとめておき、実習や就職の際に役立てる。自己理解を深める。自分のことを相手に伝える。随時更新することで、自分の変化を知る。
	企業見学（色々な仕事を知らう）	職場見学。 色々な仕事があることを知る。見学して、自分がその仕事をやれそうか、またやってみたいか考える。
	企業実習（企業で働くとは？）	各人のレベル、状態に合わせて、スタッフ同行か単独での企業内実習を行なう。 実際の企業で働くことで、就職することのイメージをつかむ。企業の中でどうふるまえばよいか（ほうれんそうの仕方、休憩時間の過ごし方等）をスタッフのモデリングを見て身につける。企業の方からの客観的な評価をもらう。就職の模擬練習。
	面接会に参加しよう	面接会参加。 就職活動を行なう。
	作業	お金を稼ぐとは？
むかしやお仕事		ポスティング 体力づくり。仕事をしてお金を稼ぐということを体験する。
畑（作物を作らう）		農作業 体力づくり。仕事をしてお金を稼ぐということを体験する。土に触れることでのリラクゼーション効果。
コミュニケーションプログラム	アンゲーム	あいさつ、身だしなみ、言葉づかい、面接練習、履歴書作成等 就職する際に必要なマナー等を学ぶ。
	サイコロゲーム（何ができるかな？）	サイコロのお題にそって話をする。聞いている人は、その話の中でよかったところを挙げる。 自分のことを話す。自分の興味外のことについても話をする。相手の話を聞き、よいところを見つける。他者から承認されることによって、自己肯定感を高める。
	グループワーク（みんなで話し合おう！みんなで考えよう！）	生活、コミュニケーション、社会等様々なお題についてグループで話し合いや演習等を行なう。「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」 自分の考えを話す。相手の話を聞く。ルール（批判しない、積極的に参加する、言いたくないことは言わなくてもよい等）に従って話し合う。意見交換をする中で、お互いの経験を分かちあう。社会性の向上
	朗読劇（ザ・女優）	朗読劇を行なう。 他者の感情を理解する（なぜこのセリフを言うのか、この感情表現になるのか等考える）。仲間同士のコミュニケーション。
	問題解決トレーニング（問題が起こったら？）	「発達障害者のための問題解決技能トレーニング」 問題の発生状況や原因を把握し、それを適切に他者に伝える。自分の陥りやすい思考や行動の特徴を知る。
	意思決定トレーニング（自分で選ぼう、自分で決めよう）	「知的障害・発達障害の人たちのための意思決定と意思決定支援」 自分の気持を知り自分で決める。意思決定を積み重ねることで自己理解を深める。
	感情コントロール（穏やかに過ごしましょう）	アンガーコントロールを中心に、感情コントロールの方法を学ぶ。「アンガーコントロール支援 ～講習編～」 自分の感情に気づき、把握する。適切な感情表現の仕方を学ぶ。感情のコントロール方法を学ぶ。
	勉強会（人間関係10のルール）	「自閉症スペクトラム障害のある人が才能をいかすための人間関係10のルール」 当事者の書いた書籍を読み解きながら、人間関係を円滑に進める方法を学ぶ。自己理解、振り返りを促す。

参考：平成29年度 滋賀県発達障害者自立生活支援事業報告書

第3項 ジョブカレのスキル評価シートについて

スキル評価シートは、アセスメントシート（モニタリングシート）、個別支援計画、引き継ぎシートなどが1セットになったもので、平成26年度にジョブカレの月中支援部門会議ⁱⁱⁱ⁾で作成されたものです。社会福祉法人横浜やまびこの里の「就労移行支援事業所のための発達障害のある人の就労支援マニュアル」（平成24年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業）に掲載されている実習評価表に基づき自己評価表を作成した後、TTAP（TEACCH Transition Assessment Profile）のアセスメント項目やVineland適応行動尺度Ⅱ、就労移行支援のためのチェックリスト（障害者職業総合センター作成）と照合し、重複する項目の統合や、必要最小限でないと判断した項目の削除、評価基準をより具体的な行動レベルに落とし込むことで作成されました。

【図3：ジョブカレのスキル評価シート】

就労移行支援のための総合シート

※必要な部分を取り出してプリントアウトします。

※個別支援計画・モニタリングシートとして取り出す場合は、作成年月日・作成者・本人同意書欄を設けます。

	領域	項目	基準	個別支援計画・モニタリングシート (1クール目：平成 年 月～平成 年 月)					
				アセスメント		支援内容	モニタリング		備考
				支援量	評価の種類		支援量	評価の種類	
1	出勤	交通手段	何らかの手段を使って自分で通勤することができる。						
2		欠席等の連絡	欠勤・遅刻等の連絡をすることができる。						
3		出勤状況	毎日出勤することができる。						
4	指示・指示系統の理解	働く場のルール理解、遵守	働く場のルールを理解し、それに従うことができる。						
5		指示の受け入れ①	上司からの指示に従うことができる。						
6		指示の受け入れ②	注意や指示・助言等をされても感情的に反発しない。 (原文：注意や指示・助言等をされても感情的に反発したり、ふてくされたりしない。)						
7		柔軟性	理由を伝えれば、急な予定変更にも応じることができる。						
8		確認	わからないことを確認することができる。						
9		報告	指示を得たら、その指示を出した者に対して報告することができる。						
10		伝言	伝言を受けたり、届けたりすることができる。						
11		仕事に関する相談	(相談先があり、) 困ったら自ら援助を求めることができる (相談できる)。 (原文：相談先があり、困ったら自ら援助を求めることができる (相談できる)。)						
12	作業遂行能力	作業量・質の理解	従事する作業で求められている量的または質的目標を理解している。						
13		作業速度	期待されている速度に合わせようと取り組むことができる。						
14		作業の効率性	効率よく仕事に取り組むことができる。						
15		作業の正確性	ミスなく作業することができる。						
16		自律性①	ルーチンであれば、特に指示がなくても行うことができる。						
17	自律性②	監督者が近くにいないくても作業を継続することができる。							

第1章 高機能発達障害者への支援プログラムについて

18	作業遂行能力	協調性	手伝いを求められたら、自分ができる範囲で手伝うことができる。						
19		集中力	よそ見・独り言・手を止めるなどがない。						
20		修正能力	自ら間違いに気づいて修正することができる。						
21	仕事の準備、後片付け	準備、後片付け	材料の準備、後片付けができる。						
22		返却	使用道具を元に戻すことができる。 (原文：道具を使ったら、元の所に返すことができる。)						
23	休憩時間のふるまい	時間の厳守	時間通りに休憩から戻ることができる。						
24		休憩時間のふるまい	自分の過ごしたいように過ごし、休息をとることができる。						
25	所持品管理		貴重品を含め、自分の持ち物を自分で管理できる。						
26	感情コントロール		自分なりの方法（ ）で落ち着くことができる。						
27	対人関係、コミュニケーション	あいさつ	必要な時に自らあいさつができる。						
28		注意喚起	他者に話しかける際、一言断ってから話しかけることができる。						
29		言葉遣い	会話中、相手に対して丁寧な言葉遣いができる。						
30		話す時の音量	会話中、相手にききとりやすい音量で話すことができる。						
31		確認	会話中、わからないことがあったら確認することができる。						
32		謝罪	必要な時に謝ることができる。						
33		表現の必要性の理解	表現しなければ、自分の気持ちは相手に伝わらないということを理解している。						
34		発言内容の選択	意地悪なことや恥ずかしいことを言わない。 (原文：みんなの前では、意地悪なことや恥ずかしいことを言わないようにしたり、失礼な質問はしないようにできる。) 失礼な質問をしない。 (原文：みんなの前では、意地悪なことや恥ずかしいことを言わないようにしたり、失礼な質問はしないようにできる。)						
35		情報の適切な扱い	個人的なことに関しては、自分のことであれ他者のことであれ、それを伝えることに十分注意することができる。						
36		傷つく状況・関係の回避	自らが傷ついたり、不愉快になったりする場面や人付き合いから離れることができる。						
37		対人距離①	関係性に応じた適切な対人距離で接することができる。						
38		対人距離②	他者に対して、頻回な質問や無理な要求をしない。						
39		相づち	会話中、相手を見て相づちを打ちながら相手の話をきくことができる。						
40	話題の維持	会話中、話題をそらさずに話すことができる。							
41	別表現	会話中、最初の説明がわかりにくいと言われると別の表現ができる。							
42	質問への応答	相手からの質問に対して、簡潔に的を得た回答をすることができる。							
43	会話の終わり	会話の終わりや会話を終えるべき時に気付くことができる。							

第3節 研究背景と目的

高機能発達障害者への支援において、個別性と専門性が求められることは支援現場において自明です。例えば、過去のジョブカレの報告書においても、個々に様々な状態像や課題がある高機能発達障害者への支援では、職員のスキルとして「高い個別性と専門性が必要^{iv)}」であるとしています。本書における個別性とは、彼らの様々なニーズや個々の障害特性に対してどのように支援するのかを指し、また、専門性とは多角的な視野で直接支援や環境設定をしていくことを指しています。

ジョブカレではこうした個別性・専門性を支援の念頭に置きながら、前節で紹介したように、5項目に分類される34のプログラムを設定し、スキル評価シートを活用しながら、丁寧にアセスメントを行い高機能発達障害者にとってよりよい支援の追及を続けてきました。

しかしながら、中には設定したプログラムに参加できないという利用者も少なくはありません。利用者がプログラムに参加できない状態が続くということは、支援者にとってみれば肝心の個別性・専門性を生かした支援の基盤であるアセスメントがなかなかとれないということを意味します。

なぜ、プログラムに参加できないのか。そこには、様々な要因があるでしょうが、可能性のひとつとして、高機能発達障害者の想像力の特性が関与していることが考えられます。それは、第1節で挙げた「目に見えないこと、経験していないことを想像しにくい、全体を見通すことが苦手」という特性です。つまり、プログラムの意図や、そのプログラムを通じて自分がどうなるのか、そのためには何をすべきか、そしてその道のりの先には何が待っているのか、などの全体の見通しが本人のなかで曖昧であることが、プログラムに対してのモチベーションの低下や、ひいてはプログラムに参加できない（しない）ということに繋がっているのではないかとことです。

そこで本研究で着目したのが、「ロジック・モデル」です。詳しくは、第2章で触れていきますが、ロジック・モデルとは簡潔に言えば、事業の目標を達成するまでの道筋をわかりやすくツリー状に図式化したものです。ジョブカレのプログラムを、このロジック・モデルにすることで、利用者、あるいは支援者にとっても、具体的な目標や支援の道筋がわかりやすくなることが期待されます。

プログラムに参加できないという課題や、ロジック・モデルによって期待される効果は、ジョブカレだけではなく、他の事業所にも共通することでしょう。ロジック・モデルを活用することで、各事業所が設定しているプログラムや支援の効果をより活かすことができるのではないかと考えます。

i) 参考:久保紘章・佐々木正美・清水康夫監訳(1998年)『自閉症スペクトルー親と専門家のためのガイドブックー』
ii) 他にも人材養成モデルの開発や、障害福祉サービス事業所の訪問調査も行ってきた。また近年では、支援プログラムやアセスメントツールの普及活動にも力を入れている。
iii) 効果的な日中支援プログラムの検討を目的に、平成24年度から26年度にかけてジョブカレの事業推進委員会に設置された部門会議のひとつ。部門会議には他に生活支援部門会議と支援者養成部門会議があった。
iv) 社会福法人グロー(2018年)『平成29年度 発達障害者自立生活支援事業報告書』p.1